

## 令和7年度 久米島高等学校 学校評価報告書

### 1. 令和7年度学校評価アンケート回答状況

生徒、保護者・学校評議員、職員のアンケート回答状況は、次のとおりである。

(令和7年2月1日現在の生徒数：169人)

	回答数(人)	回答率(%)
生徒	79	46.7%
保護者・学校評議員	67	39.6%
教職員	35	94.5%

### 2. 生徒アンケート(結果考察)

A:そう思う    B:ややそう思う    C:あまりそう思わない    D:そう思わない

No.	評価内容	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	A+B (%)	C+D (%)
1	私は、楽しい学校生活を送ることができている。	62.0	32.9	5.1	1.3	94.9	6.3
2	本校の体育祭、久米高祭などの学校行事は充実している。	62.0	31.6	5.1	1.3	93.7	6.3
3	私は、学校からのいろいろな連絡や案内は、家庭にきちんと届けている。	39.2	43.0	16.5	1.3	82.3	17.7
4	本校は、保護者・地域の願いや希望に応えている。	35.4	54.4	8.9	1.3	89.9	10.1
5	授業の速さ(スピード)は自分に合っている。	43.0	44.3	11.4	1.3	87.3	12.7
6	授業(実習も含む)は、将来の進路決定などに役立つと思う。	59.5	36.7	3.8	0.0	96.2	3.8
7	先生方は、学習面で生徒を理解し、また理解しようと努力している。	60.8	38.0	1.3	0.0	98.7	1.3
8	生徒は、服装指導や遅刻指導などの生活面の指導は大切だと思っている。	50.6	30.4	13.9	5.1	81.0	19.0
9	生徒は、携帯電話を登校時から終わりのSHR終了後まで使用しないよう心がけている。	64.6	20.3	11.4	3.8	84.8	15.2
10	学校は、いじめや生徒の心の健康について適切に対応していると思う。	50.6	34.2	7.6	7.6	84.8	15.2

11	先生方や部活指導者の日頃の言動は、生徒の人権に配慮した対応だと思う。	54.4	34.2	10.1	1.3	88.6	11.4
12	本校では、生徒一人ひとりの適性や希望にあった進路指導が行われている。	62.0	32.9	3.8	1.3	94.9	5.1
13	部活動は、活発である。	62.0	26.6	5.1	6.3	88.6	11.4
14	教室、図書館、体育館など学校の施設は、十分整備されている。	51.9	30.4	16.5	1.3	82.3	17.7

全項目で、肯定的な回答が80%を超える評価となっている。

質問項目1・2は、学校生活全般に関する設問で、それぞれ94.9%、93.7%と肯定的な回答となっている。生徒たちがより充実した学校生活を過ごせるように、生徒の自主性や協働を高める取り組みを更に進めていくことが重要である。学習指導については、6・7の設問で95%を超える肯定的な回答となっており、教職員が常に学習指導の工夫・改善に取り組んでいることが生徒にも伝わっていると考えられる。一方で、設問5の授業の速さについては肯定的な回答が80%台であり、授業に追いつけない生徒が12.7%となっていることから、個に応じた指導を更に進めていく必要がある。

8・9の生活指導に関する取り組みについても肯定的な回答が80%を超えているが、2割近くの生徒が「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答していることから、学校生活でのルールの役割等について、今後も生徒との対話を通して理解を深めていく必要がある。

10・11は生徒が安全安心な学校生活を送る上で重要な項目であり、80%を超える肯定的な回答があった。教員がアンテナを高く張り、生徒の変化を見逃さないことや校内の相談体制を更に充実させていくことが今後も重要な課題である。

12・13の進路指導や部活動についても肯定的な回答が高い傾向にある。教員が一人一人と丁寧に向き合い生徒の進路実現を支援していることや、複数の教師で部活動の指導や生徒の活動を支援していることが生徒に浸透しているといえる。

### 3. 保護者・学校評議員アンケート（結果考察）

A:そう思う B:ややそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない E:わからない

No.	評価内容	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	E (%)	A+B (%)	C+D (%)
1	学校の教育目標や経営方針は、保護者に十分知らされている。	28.4	64.2	7.5	0.0	0.0	92.5	7.5
2	学校と地域との間に、密接な交流が行われている。	43.3	46.3	10.4	0.0	0.0	89.6	10.4
3	生徒は向上の意欲を持って、勉学や特別活動に励んでいる。	38.8	55.2	6.0	0.0	0.0	94.0	6.0
4	学習時間と部活動のバランスは上手くとれている。	37.3	49.3	9.0	4.5	0.0	86.6	13.4

5	久米高生の基本的生活習慣は、よく身に付いていると思う。	28.4	59.7	11.9	0.0	0.0	88.1	11.9
6	校則等の指導は適切である。	40.3	49.3	10.4	0.0	0.0	89.6	10.4
7	学校はいじめや生徒の心の健康について、適切に対応している。	32.8	55.2	11.9	0.0	0.0	88.1	11.9
8	先生方や部活指導者の日頃の言動は、生徒の人権に配慮した対応だと思う。	52.2	41.8	6.0	0.0	0.0	94.0	6.0
9	生徒、保護者との進路相談は充実している。	41.8	46.3	9.0	3.0	0.0	88.1	11.9
10	学校は進路説明会や相談会など、進路対策に努めている。	53.7	41.8	1.5	3.0	0.0	95.5	4.5
11	部活動は活発である。	44.8	46.3	7.5	1.5	0.0	91.0	9.0
12	学校の施設・設備は、よく整っている。	25.4	56.7	17.9	0.0	0.0	82.1	17.9

全項目で、肯定的な回答が80%を超えており、学校の教育活動について保護者の理解を得られている傾向が見られる。一方で、肯定的な割合が90%を超えているのは5項目となっているため、残りの7項目についても保護者の理解を更に得ていくためにも、学校全体で課題を共通理解し、教育活動を進めていく必要がある。

質問項目1・2・8・9は肯定的な回答が85%を超えており、保護者から学校の教育活動や地域との連携、進路指導の状況について理解を得られていると考えられる。部活動に関する質問項目4・11では、部活動が活発と捉えている保護者は90%を超えているが、学習時間と部活動のバランスという質問では、「あまりそう思わない」「そう思わない」が13.4%となっていることから、部活動の在り方も今後の課題の一つといえる。

#### 4. 教職員アンケート（結果考察）

A:そう思う B:ややそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない

No.	評価内容	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	A+B (%)	C+D (%)
1	中高連携型入試は適切に運用されているか。	48.6	31.4	20.0	0	80.0	20.0
2	分かる授業・参加する授業をめざして取り組むことができた。	34.3	62.9	2.9	0	97.1	2.9
3	学校におけるいじめへの対処方針や指導計画を明確にしているか。	34.3	37.1	28.6	0	71.4	28.6
4	生徒の人権意識の育成を図るための取組を行っているか。	31.4	51.4	14.3	2.86	82.9	17.1

5	進路指導の充実を図り、進路決定率の向上に努めている。	62.9	37.1	0.0	0	100.0	0.0
6	部活動の活性化を図っている。	34.3	48.6	17.1	0	82.9	17.1
7	同僚・管理職との良好な人間関係の構築が出来ている。	28.6	31.4	31.4	8.57	60.0	40.0
8	個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができています。	11.4	48.6	22.9	17.1	60.0	40.0
9	一人一人の生徒との信頼関係を深めることができています。	31.4	65.7	2.9	0	97.1	2.9
10	より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	2.9	60.0	37.1	0	62.9	37.1
11	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができています。	8.6	34.3	37.1	20	42.9	57.1
12	学校の施設・設備管理、安全点検管理が十分に行われている。	28.6	62.9	5.7	2.86	91.4	8.6
13	三者面談等保護者との連携情報の共有が図れた。	31.4	62.9	5.7	0	94.3	5.7

質問項目2の授業に関することと5の進路指導に関することについては、生徒・保護者の回答と同様に高い。授業の工夫・改善に取り組む意識や、進路指導部や学級担任による進路指導のほか、課外講座や模試、小論文指導など多くの教職員が進路指導に携わっており、それが生徒や保護者に理解されていると考えられる。

また、働き方改革（3軸6視点）に関する質問項目については、設問7・8が60%、11が42.9%と他の項目と比べ低い傾向にある。職場における良好な人間関係の構築や個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保については、改善について職員にも広く意見を求め、管理職のリーダーシップによる職場環境の改善を進めていかなければならない。管理職は、教職員とのコミュニケーションを深め、ラインケアや業務へのサポートを充実させて、教職員が心身の健康を確保し、良い人間関係が築ける安全で快適な職場環境づくりに取り組む必要がある。

## 5. まとめ

学校生活全般や学校と地域との連携、学習指導、進路指導など多くの項目で、生徒・保護者・教職員とも評価は高い。部活動についても評価は高いが、学習時間と部活動のバランスがあまり取れていないと感じている保護者もいることから、部活動の在り方も学校全体で考えていくことも求められている。

また、授業や学習についても生徒・保護者・教職員とも評価は高い傾向にあるが、授業に追いついていないと感じている生徒もいることから、学習指導の工夫・改善も更に進めていくことが必要である。管理職のリーダーシップのもと、教育活動を担う教職員が安心して働ける、働きがいのある職場環境をつくり、全教職員で協力して教育活動に取り組めるよう協働体制を整備していく。さらに教職員のゆとりを確保できるように業務の効率化を検討し、教職員が各々の力を発揮できるよう管理職の支援体制を充実させていくことが重要である。

今後とも、生徒たちが楽しく充実した学校生活を送れるよう、生徒・保護者と全教職員が協力して魅力ある学校づくりと教育活動に取り組んでいきたい。